

小牧市地域公共交通網形成計画策定に係る各種アンケート等の実施結果 概要

< 目 次 >

市民アンケート調査	1
バス利用者アンケート調査	2
バス利用者ヒアリング調査	3
バス停利用者調査	3
企業アンケート調査	4
<新規>従業員アンケート調査	4
教育機関アンケート調査	5
<新規>各種アンケート等のクロス集計結果	5
通過時刻調査	6
<新規>交通事業者ヒアリング	6
<新規>公共交通地域懇談会	7
調査結果のまとめ	8

市民アンケート調査

1. 調査の実施概要

(1) 調査の目的

本調査は、多様化する公共交通に対するニーズや、公共交通の確保・維持に関するあり方を検討する上で必要となる基礎的数値を把握し、地域公共交通網形成計画策定の基礎資料とすることを目的とします。

(2) 調査対象、調査方法及び回収結果

	内容		内容
調査対象	15 歳以上の市民	調査時期	平成 28 年 8 月 31 日 (水)～9 月 13 日 (火)
配布数	3, 000 通	回収率	41. 8％ (回収数：1, 255 票/配布数：3, 000 票)
抽出方法	無作為抽出	必要サンプル数※	1, 059 票 (回収数が上回った為、この回答は有効)
調査方法	郵送方法による配布・回収		

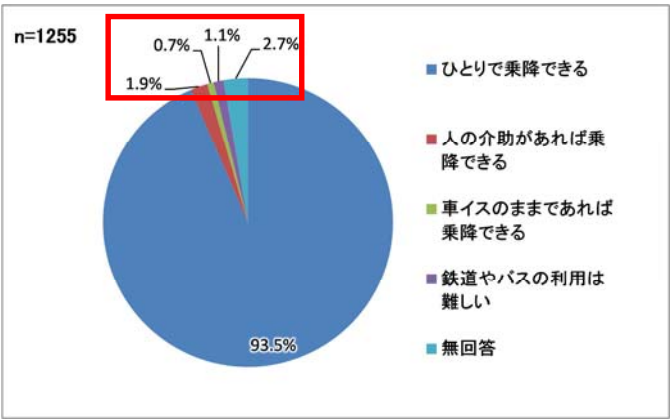
※H28 年 7 月時点の 15 歳以上の人口を母集団とし、信頼度 95％で調査精度±3％を確保する場合

2. 項目別集計結果

(1) 移動条件について

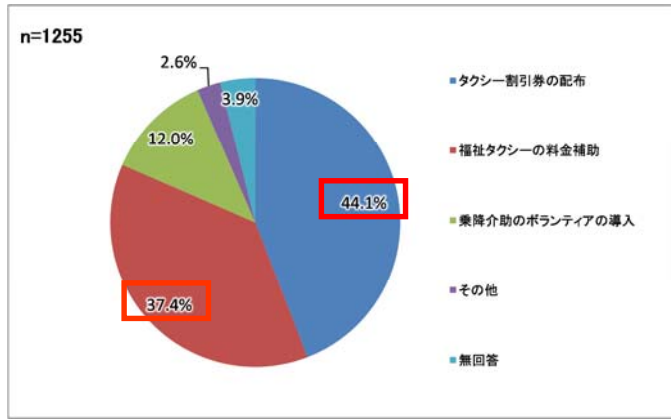
〈問 7〉鉄道やバスの乗り降りについて

■「ひとりで乗降できる」が約 94％を占める一方、「人の介助があれば乗降できる」、「車イスのままであれば乗降できる」がそれぞれ約 1～2％、「鉄道やバスの利用は難しい」とされる方も約 1％存在しています。



〈問 8〉自力での移動が困難になったときに実施してほしい施策

■「タクシー割引券の配布」が約 44％と最も多く、次いで「福祉タクシーの料金補助」が約 37％となっています。

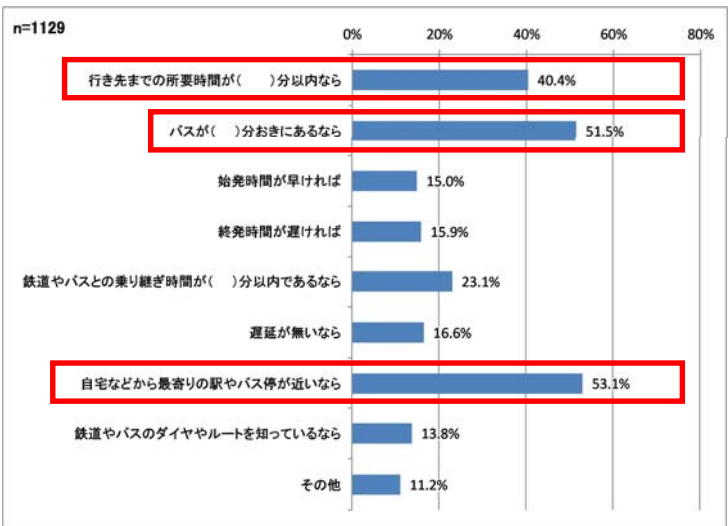


(2) 自家用車の利用について

【自家用車の利用者への質問】

〈問 12〉公共交通が利用可能となる条件

■「自宅などから最寄りの駅やバス停が近いなら」が約 53％と最も多く、次いで「バスが（ ）分おきにあるなら」「行き先までの所要時間が（ ）分以内なら」の順に多くなっています。

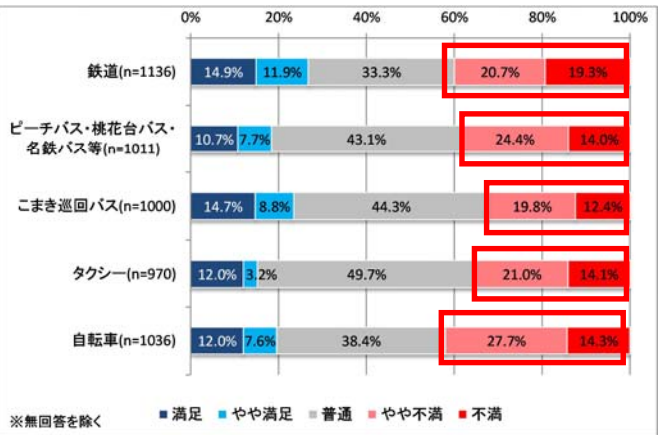


※複数回答

(4) 公共交通の維持・活性化について

〈問 29〉小牧市内の交通環境の満足度

■いずれの交通手段も、不満足度が満足度を上回っています。

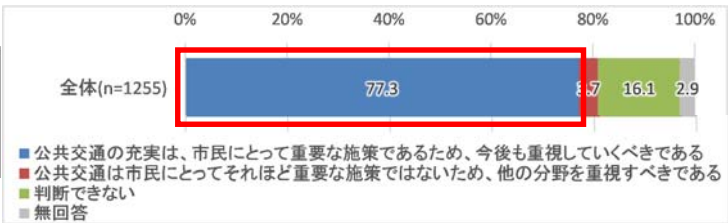


※無回答を除く

(3) こまき巡回バスについて

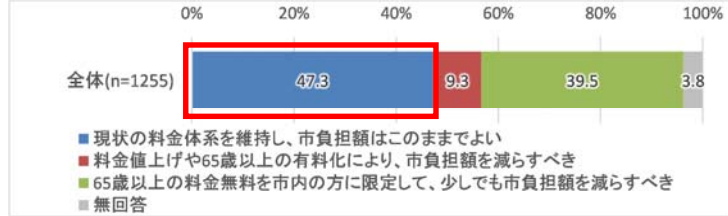
〈問 25〉公共交通に対する市の方向性について

■「公共交通の充実は、市民にとって重要な施策であるため、今後も重視していくべきである」が約 77％を占めています。



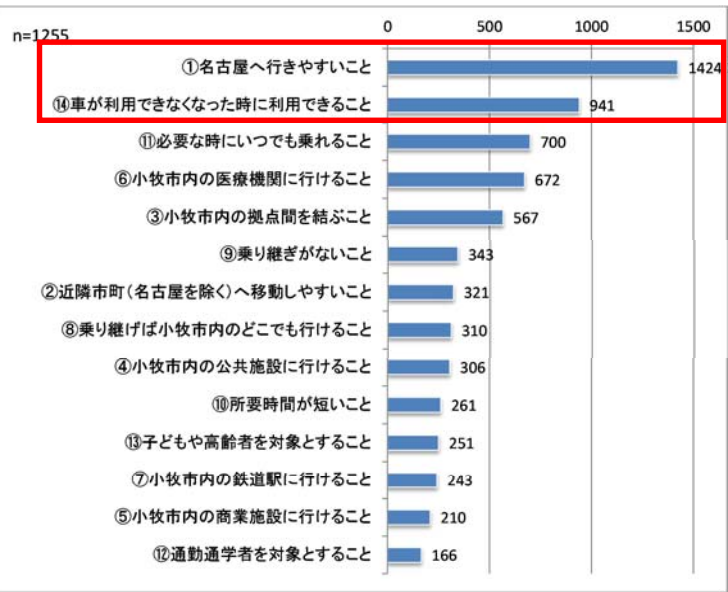
〈問 26〉こまき巡回バスの料金体系について

■「現状の料金体系を維持し、市負担額はこのままでよい」が約 47％を占める一方、「65 歳以上の料金無料を市内の方に限定して、少しでも市負担額を減らすべき」も約 40％存在します。



〈問 30〉今後の公共交通に期待する役割

■「名古屋へ行きやすいこと」が最も多く、次いで「車が利用できなくなった時に利用できること」が多くなっています。



※上位 3 つを選択

※1 つ目を 3 ポイント、2 つ目を 2 ポイント、3 つ目を 1 ポイントとして集計

バス利用者アンケート調査

1. 調査の実施概要

(1) 調査の目的

本調査は、市内を運行する路線バス及びこまき巡回バスの満足度、重要度、改善点等の意向を把握し、地域公共交通網形成計画策定の基礎資料とすることを目的とします。

(2) 調査対象、調査方法及び回収結果

	内容		内容
調査対象	小牧市内を運行するバス路線（ピーチバス・桃花台バス・名鉄バスの各路線及びこまき巡回バスの各コース）の調査期間における全利用者	調査時期	路線バス：平成 28 年 9 月 8 日(木) (9 月 26 日(月)に補足調査を実施) こまき巡回バス:平成 28 年 9 月 4 日(日) ～9 月 10 日(土)
配布数	14, 147 通 路線バス（ピーチバス・桃花台バス・名鉄バス）：11, 234 通 こまき巡回バス：2, 913 通	回収率	23. 9% (回収数：3, 383 票/配布数：14, 147 票)
調査方法	バス車内での配布 郵送方法による回収	必要サンプル数※	1, 937 票 (回収数が上回った為、この回答は有効)

※調査期間中の利用者（H27 年 9 月の利用者数より想定利用者数を算出）を母集団とし、信頼度 95%で調査精度±3%を確保する場合

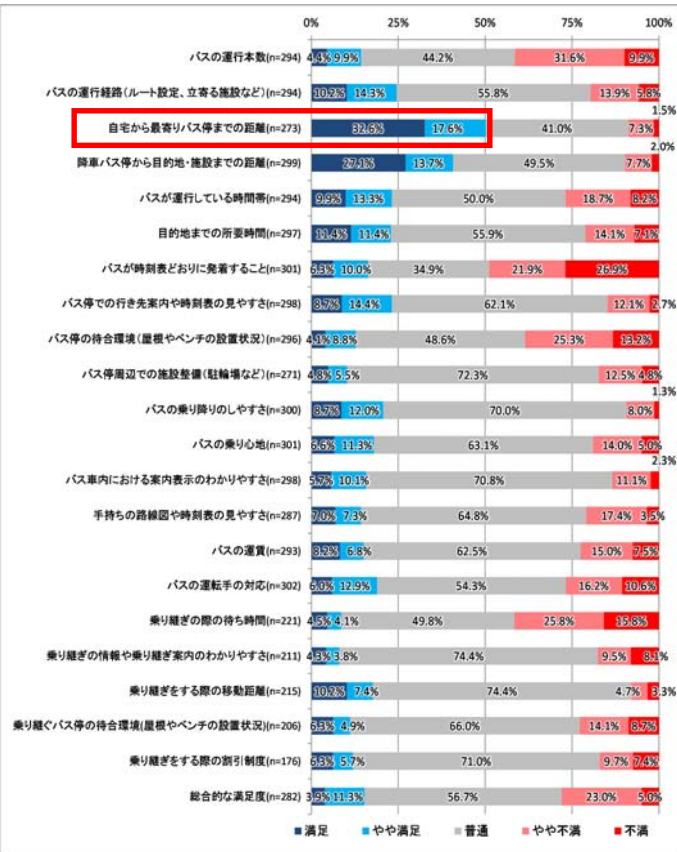
2. 調査結果

(1) アンケートを受け取ったバスの満足度について

【ピーチバスの利用者への質問】

〈問 13〉ピーチバスの満足度

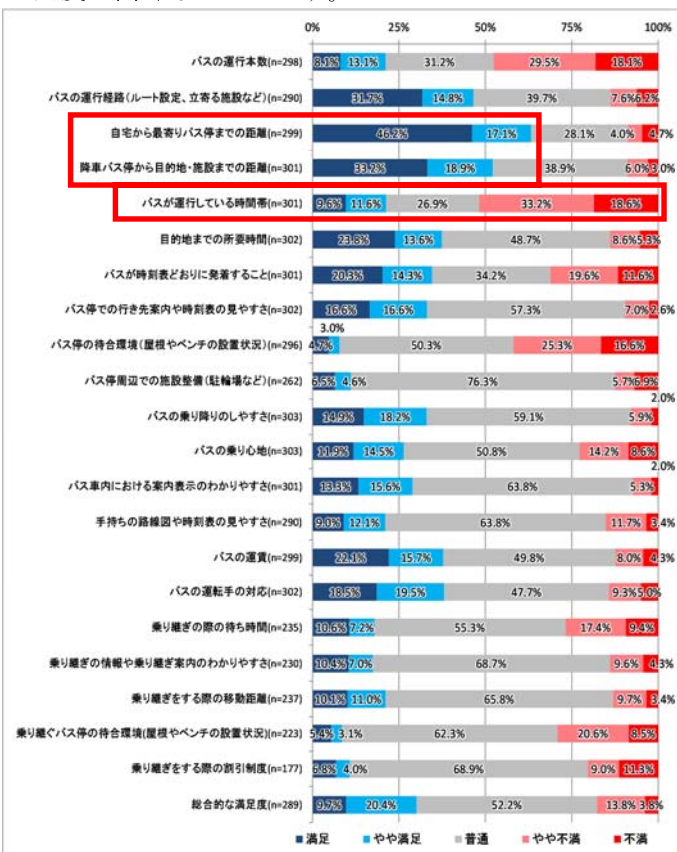
■「自宅から最寄りバス停までの距離」の満足度が高くなっています。



【桃花台バスの利用者への質問】

〈問 13〉桃花台バスの満足度

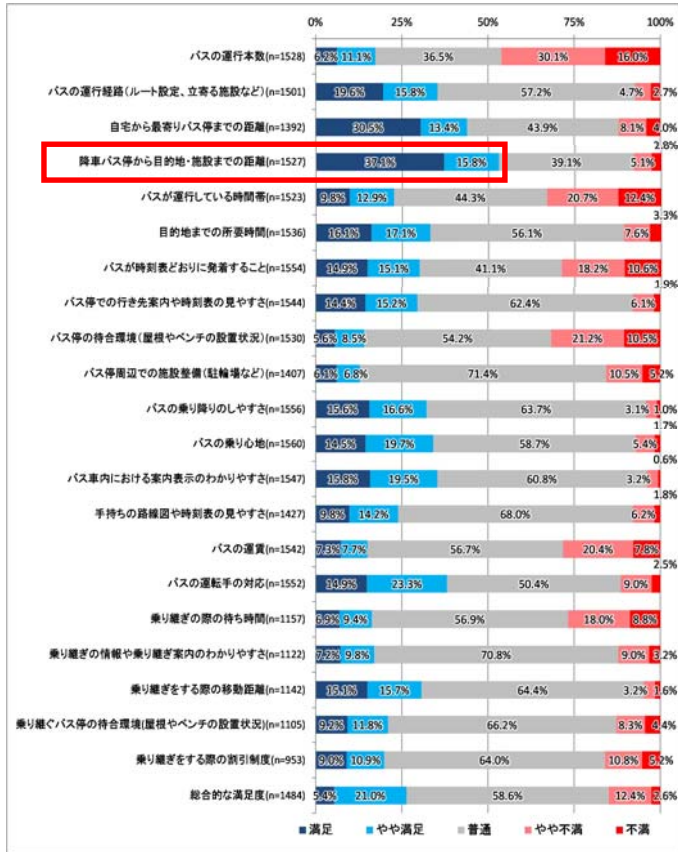
■「自宅から最寄りバス停までの距離」「降車バス停から目的地・施設までの距離」の満足度が高くなっていますが、一方で「バスが運行している時間帯」の不満足度が高くなっています。



【名鉄バスの利用者への質問】

〈問 13〉名鉄バスの満足度

■「降車バス停から目的地・施設までの距離」の満足度が高くなっています。

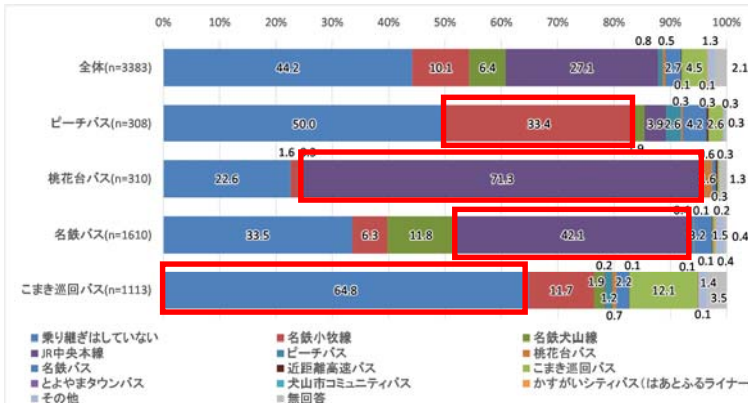


(2) バスの利用について

〈問 8〉乗り継ぎ利用について

■ピーチバスでは「名鉄小牧線」への乗り継ぎが約 33%、桃花台バスでは「JR 中央本線」への乗り継ぎが約 71%、名鉄バスでは「JR 中央本線」への乗り継ぎが約 42% となっています。

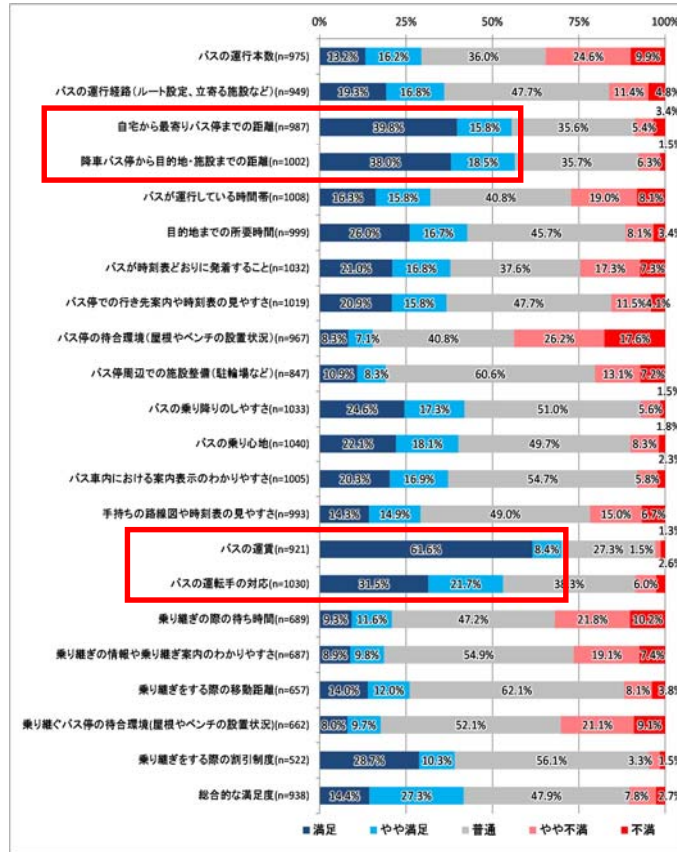
■一方、こまき巡回バスでは「乗り継ぎしていない」が約 65%と多くなっています。



【こまき巡回バスの利用者への質問】

〈問 13〉こまき巡回バスの満足度

■「自宅から最寄りバス停までの距離」「降車バス停から目的地・施設までの距離」「バスの運賃」「バスの運転手の対応」の満足度が高くなっています。

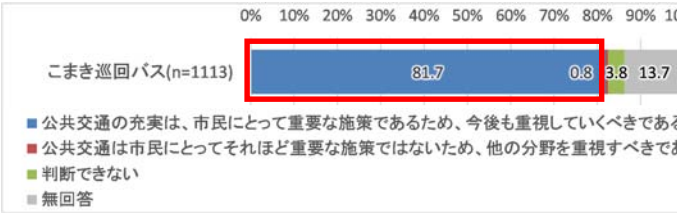


(3) こまき巡回バスの維持について

【こまき巡回バスの利用者への質問】

〈問 16〉公共交通に対する市の方向性について

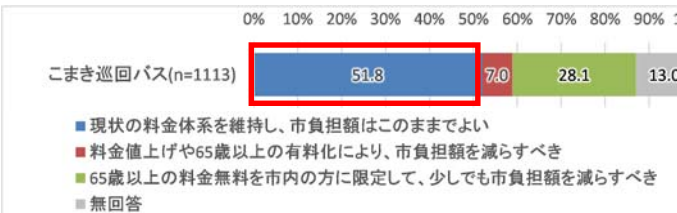
■「公共交通の充実は、市民にとって重要な施策であるため、今後も重視していくべきである」が約 82%を占めています。



【こまき巡回バスの利用者への質問】

〈問 17〉こまき巡回バスの料金体系について

■「現状の料金体系を維持し、市負担額はこのままでよい」が約 52%を占めています。



バス利用者ヒアリング調査

1. 調査の実施概要

(1)調査の目的

本調査は、市内を運行する路線バス利用者の乗降バス停と、こまき巡回バス利用者の乗降バス停、利用目的、利用頻度等を把握し、地域公共交通網形成計画策定の基礎資料とすることを目的とします。

(2)調査対象及び調査方法

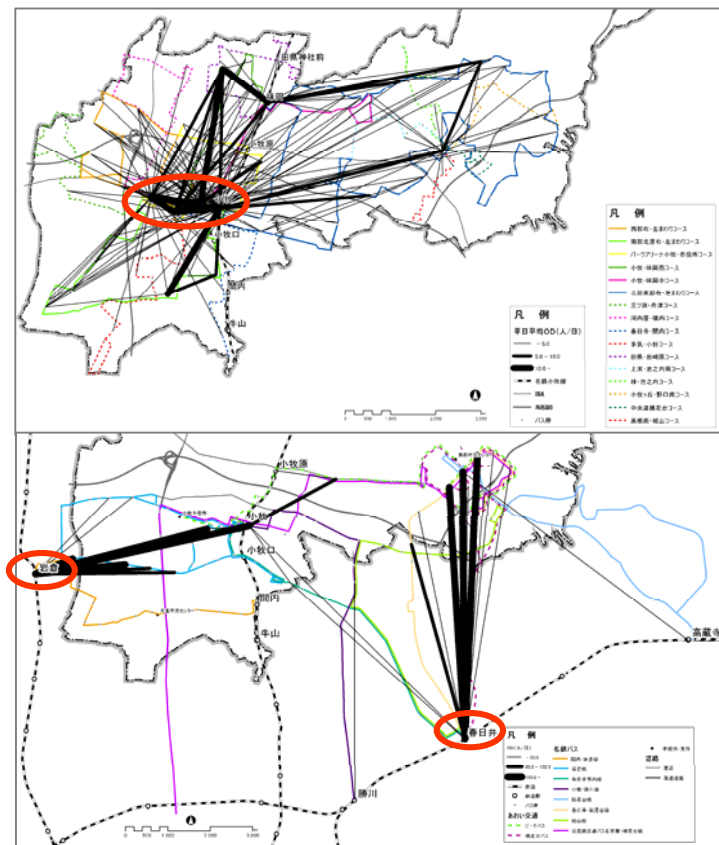
	内容
調査対象	小牧市内を運行するバス路線（ピーチバス・桃花台バス・名鉄バスの各路線及びこまき巡回バスの各コース）の調査期間における全利用者
調査票数	路線バス : 8,878 票 こまき巡回バス : 12,329 票
調査方法	路線バス : バス車内での、調査員によるカード配布・回収（乗降バス停のみ） こまき巡回バス : バス車内での調査員によるヒアリング
調査時期	路線バス : 平成 28 年 9 月 26 日（月） こまき巡回バス : 平成 28 年 9 月 4 日（日）～9 月 10 日（土）

2. 項目別集計結果

(1)バスの利用実態

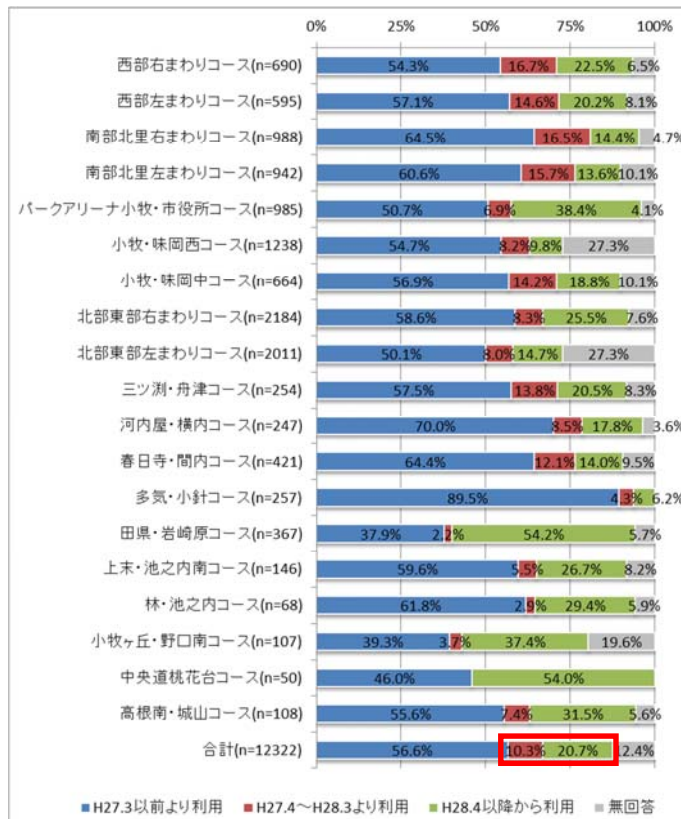
バス停間 OD

■こまき巡回バスは、「小牧駅」や「小牧市役所前」と各地域を結ぶ利用、路線バスは、「春日井駅」や「岩倉駅」と市内を結ぶ移動が多くなっています。



利用開始時期

■こまき巡回バス利用者全体では、こまき巡回バスの路線再編以降である「H27.4～H28.3 より利用」または「H28.4 以降から利用」が約 31%となっています。



バス停利用者調査

1. 調査の実施概要

(1)調査の目的

本調査は、中央道桃花台バス停の利用実態や問題点などを把握し、地域公共交通網形成計画策定の基礎資料とすることを目的とします。

(2)調査対象及び調査方法

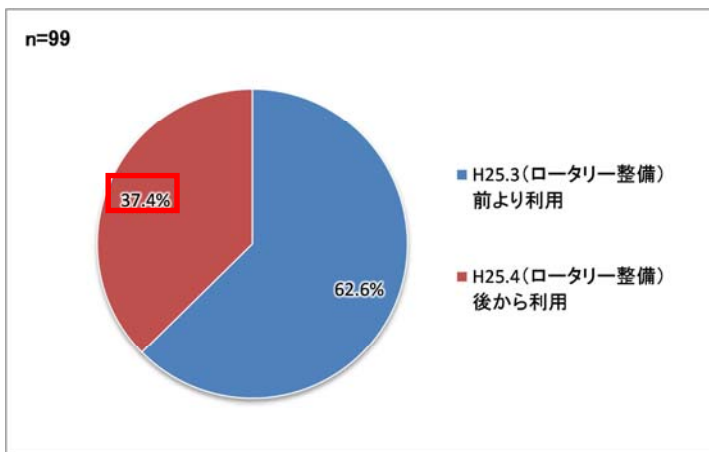
	内容
調査対象	中央道桃花台バス停の平日 1 日の利用者
調査票数	312 票
調査方法	中央道桃花台バス停での、調査員によるヒアリング
調査時期	平成 28 年 9 月 8 日（木）

2. 項目別集計結果

(1)中央道桃花台バス停の利用実態

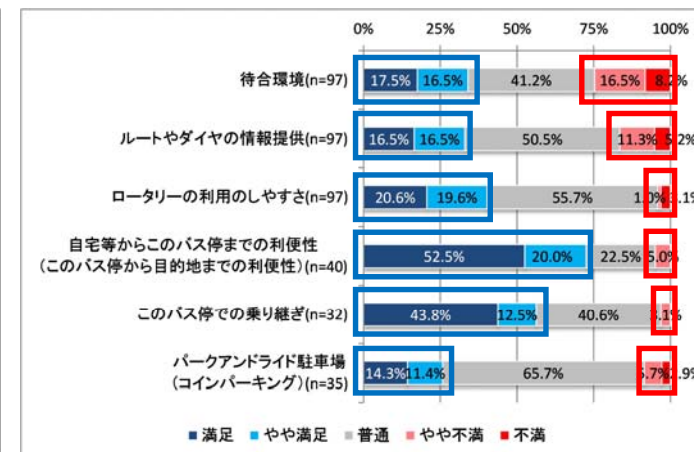
中央道桃花台バス停の利用開始時期

■ロータリー整備以降の新規利用者は約 37%となっています。



中央道桃花台バス停の各種利用環境に対する満足度

■どの項目においても満足度が不満足度を上回っています。



企業アンケート調査

1. 調査の実施概要

(1)調査の目的

本調査は、小牧市内に立地する企業における従業員の通勤実態や公共交通利用の可能性などを把握し、地域公共交通網形成計画策定の基礎資料とすることを目的とします。

(2)調査対象、調査方法及び回収結果

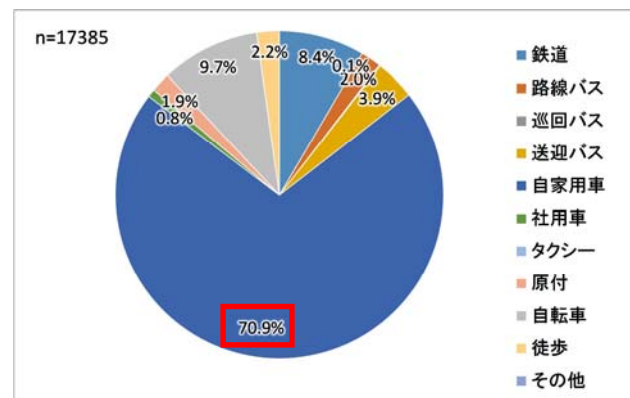
	内容		内容
調査対象	小牧市内に立地する従業員 50 人以上の事業所及びその従業員	調査時期	平成 28 年 8 月 31 日(水)～9 月 15 日(木)
配布数	262 事業所	回収率	37.0% (回収数：97 事業所/配布数：262 事業所)
調査方法	郵送方法による配布・回収	従業員アンケート配布事業所	24 事業所

2. 項目別集計結果

(1)従業員の通勤時の交通手段について

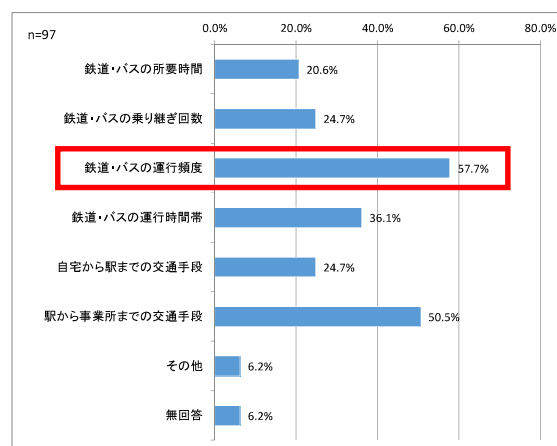
〈問 2〉従業員の通勤時の交通手段

■従業員の通勤時の交通手段は、「自家用車」が約 71%と最も多くなっています。



〈問 5〉通勤のために公共交通を利用する際に不便だと思う点

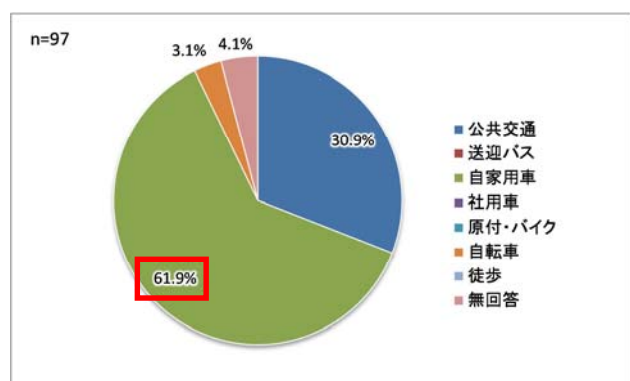
■「鉄道・バスの運行頻度」が約 58%と最も多くなっています。



※複数回答

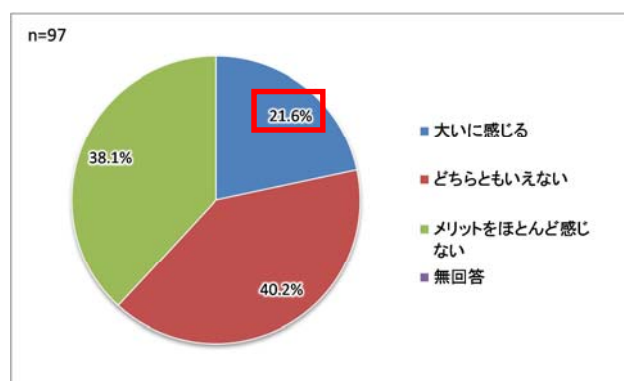
〈問 6〉企業にとって望ましい通勤手段

■企業にとって望ましい通勤手段は「自家用車」が約 62%を占めています。



〈問 9〉通勤手段として公共交通の利用を促進することに“メリット”を感じるか

■通勤手段として公共交通の利用を促進することに約 22%が“メリット”を「大いに感じる」と回答しています。



従業員アンケート調査

1. 調査の実施概要

(1)調査の目的

本調査は、市内外からの労働者一人一人の通勤実態や、通勤における公共交通の利用が可能となる条件等を把握することを目的とします。

(2)調査方法及び調査対象、回収結果

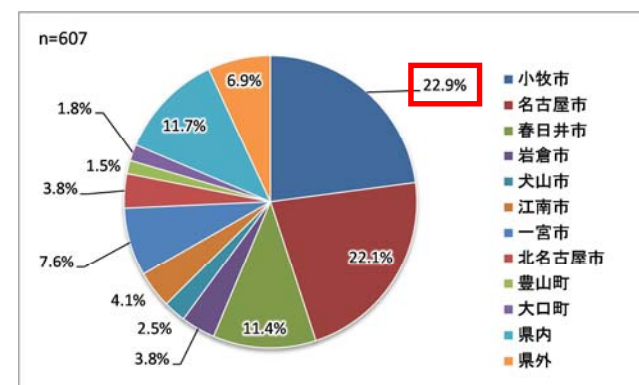
	内容		内容
調査対象	公共交通に関する企業アンケート対象事業所のうち、本アンケートへの協力が確認できた 24 事業所の従業員	調査時期	平成 28 年 10 月 6 日（木）～10 月 20 日（木）
配布数	791 票	回収率	76.7% (回収数：607 票/配布数：791 票)
調査方法	郵送方法による配布・回収		

2. 項目別集計結果

(1)従業員の通勤時の交通手段について

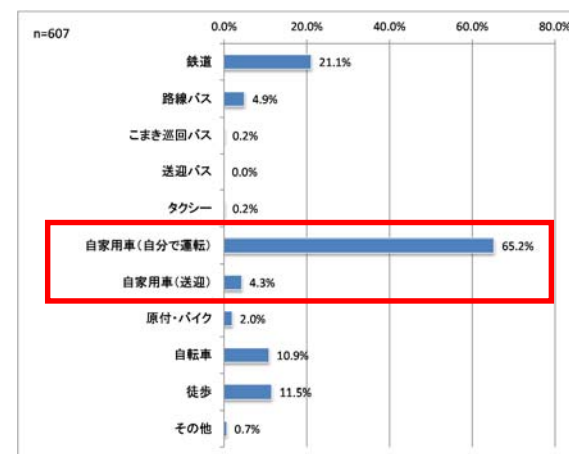
〈問 1④〉お住まいの地域

■小牧市が約 23%と最も多く、名古屋市、春日井市と合わせて約 56%となっています。



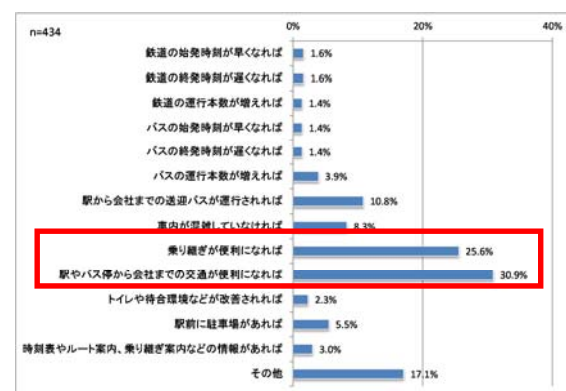
〈問 2③〉通勤手段

■通勤手段は、自家用車が約 65%と最も多く、自家用車の送迎を合わせると約 70%となっています。



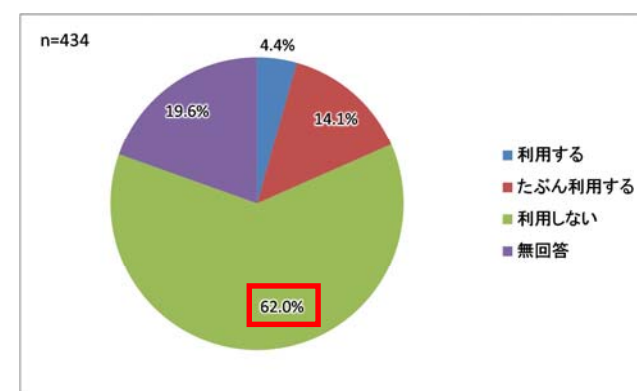
〈問 3〉公共交通の利用が可能となる条件

■「駅やバス停から会社までの交通の利便性」で約 31%と最も多く、次いで「乗継の利便性」となっています。



〈問 4〉改善された場合、通勤に公共交通を利用しようと思うか

■内容が改善された場合でも、公共交通を利用しない人が約 62%となっています。



教育機関アンケート調査

1. 調査の実施概要

(1) 調査の目的

本調査は、小牧市内及びその周辺に立地する高校・大学における生徒・学生の通学実態や公共交通利用の可能性などを把握し、地域公共交通網形成計画策定の基礎資料とすることを目的とします。

(2) 調査方法及び調査対象、回収結果

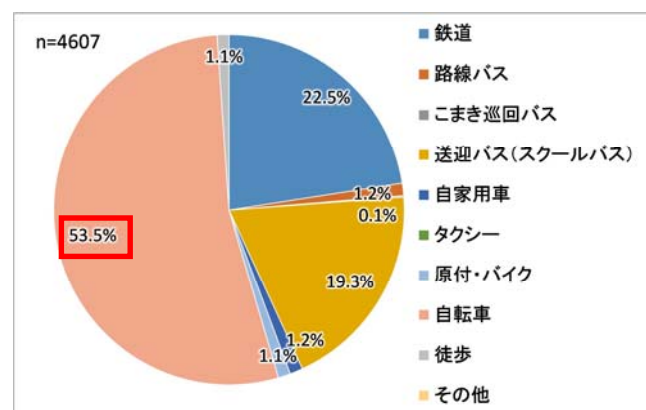
	内容		内容
調査対象	小牧市内及びその周辺に立地する高校及び大学	調査時期	平成 28 年 8 月 29 日(月)～9 月 9 日(金)
配布数	7 校	回収率	85.7% (回収数：6 校/配布数：7 校)
調査方法	郵送方法による配布・回収	学生アンケート 配布校	0 校

2. 項目別集計結果

(1) 学生の通学時の交通手段について

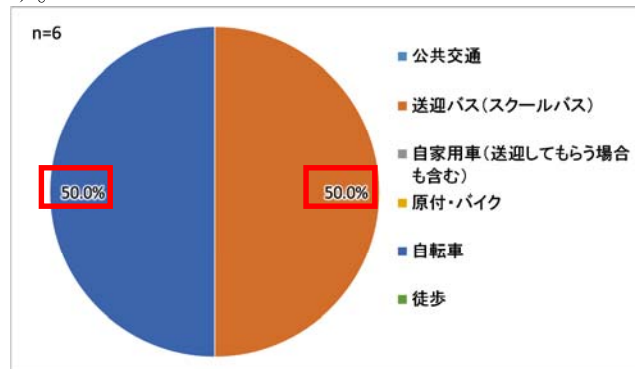
〈問 2〉学生の通学時の交通手段

■学生の通学時の交通手段は、「自転車」が約 54%と最も多くなっています。



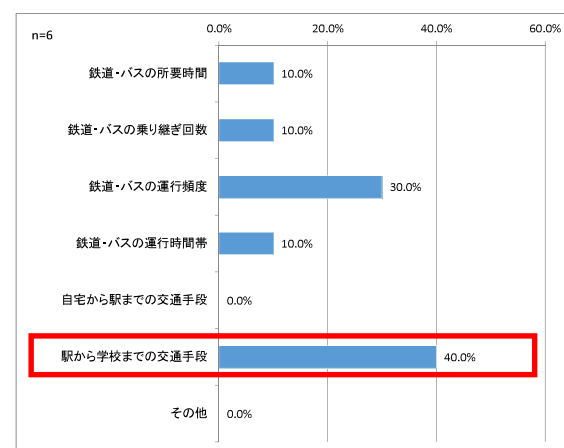
〈問 6〉学校にとって望ましい通学手段

■学校にとって望ましい通学手段は「自転車」と「送迎バス（スクールバス）」がそれぞれ半数を占めています。



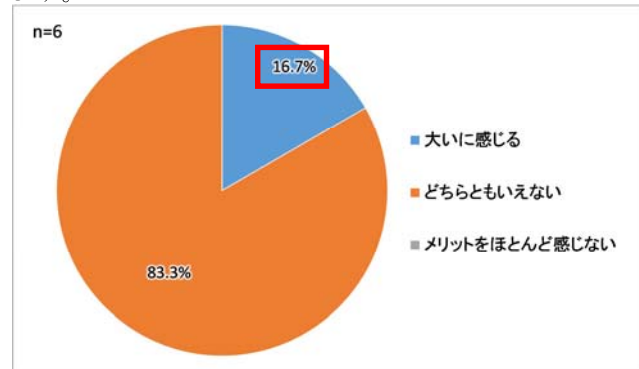
〈問 5〉通学のために公共交通を利用する際に不便だと思う点

■「駅から学校までの交通手段」が約 40%と最も多くなっています。



〈問 8〉通学手段として公共交通の利用を促進することに“メリット”を感じるか

■通学手段として公共交通の利用を促進することに約 17%が“メリット”を「大いに感じる」と回答しています。



各種アンケート等のクロス集計結果

1. クロス集計結果

(1) 集計の目的

各種アンケート等の集計結果について、クロス集計による詳細な分析を行うことで小牧市地域公共交通網形成計画策定に係る課題を抽出することを目的とします。

2. 集計結果

(1) 市民アンケート調査クロス集計結果

【年齢別集計】

〈問 6〉徒歩での移動可能時間について

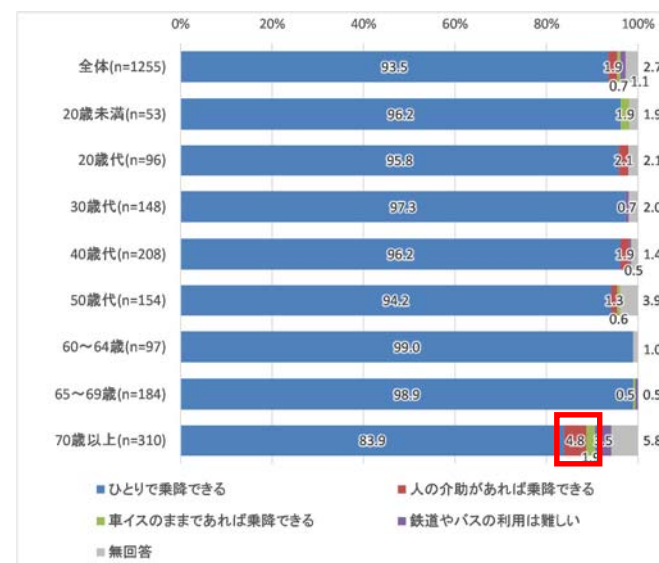
■40 歳代以上では、年齢が高くなるほど、「10 分程度」までの割合が減少し、70 歳以上では、約 60%を占めています。



【年齢別集計】

〈問 7〉鉄道やバスの乗り降りについて

■70 歳以上では、「人の介助があれば乗降できる」「車イスのままであれば乗降できる」を合わせると約 7%存在しています。



(2) バス利用者アンケート調査クロス集計結果

【名鉄バス路線別集計】

〈問 7〉利用目的について

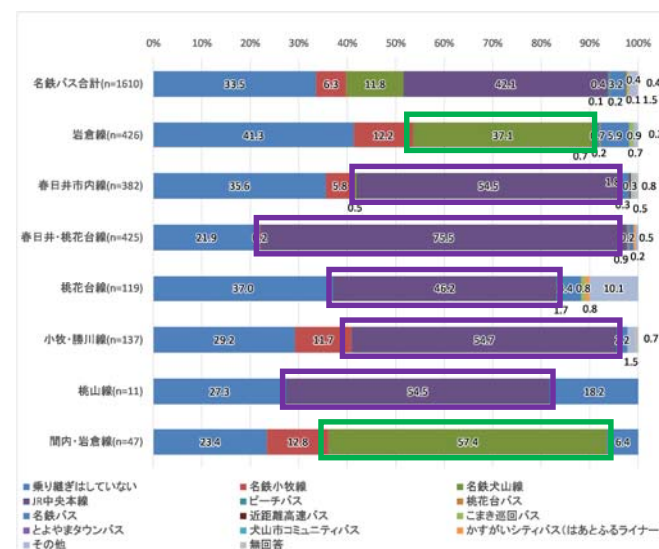
■名鉄バスの各路線では、どの路線においても「通勤」利用が最も多くなっており、約 47%～約 82%を占めています。



【名鉄バス路線別集計】

〈問 8〉乗り継ぎ利用について

■名鉄バスの各路線では岩倉駅に乗り入れている路線は、「名鉄犬山線」、春日井駅、勝川駅、高蔵寺駅に乗り入れている路線は、「JR 中央本線」との乗り継ぎ利用が多くなっています。



通過時刻調査

1. 調査の実施概要

(1)調査の目的

本調査は、こまき巡回バスのバス停間の所要時間や遅延時間等を把握し、こまき巡回バスの安全性・定時性の確保に向けた課題を抽出することを目的とします。

(2)調査方法及び調査対象、回収結果

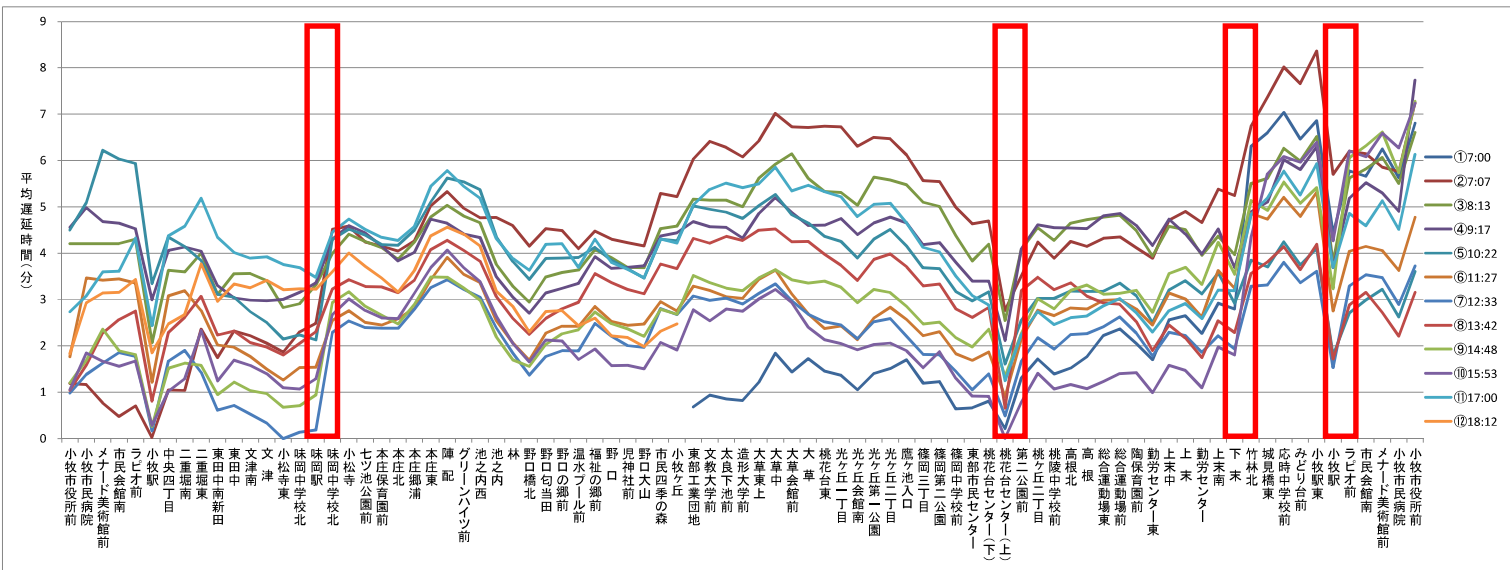
	内容
調査対象	こまき巡回バスの1週間（連続する7日間）の全コース全便
調査期間	平成28年9月4日（日）～9月10日（土）
調査方法	11～19 コース（35人乗りノンステップバス）：車内での調査員による記録 51～60 コース（ワンボックスバス）：車内でのGPS機器による観測

2. 路線別集計結果

(1)こまき巡回バスの運行実態について

18 北部東部右まわりコースの遅延状況

■北部東部右まわりコースでは、「味岡駅」「味岡中学校北」バス停間、「桃花台センター（上）」「第二公園前」バス停間、「下末」「竹林北」バス停間、「小牧駅」「ラピオ前」バス停間など特定の区間で、いずれの便においても遅延時間が増大する区間が存在しています。



交通事業者ヒアリング調査

1. 調査の実施概要

(1)調査の目的

本調査は、公共交通の運行実態や安全確保に関する問題点を抽出するとともに、運行改善に係るアイデアを把握することを目的とします。

(2)調査方法及び調査期間

	内容
調査対象	小牧市内に営業所のある交通事業者（全7事業者） 鉄道事業者：名古屋鉄道株式会社 バス事業者：名鉄バス株式会社、あおい交通株式会社 タクシー事業者：あおい交通株式会社、小牧タクシー株式会社、まるは福祉&介護タクシー、名鉄西部交通株式会社
調査方法	調査員による聞き取り
調査期間	平成28年10月～11月

2. 調査結果

(1)公共交通全体の利便性を高めるために、今後取り組みが必要と思われることや、小牧市や地域との係わりに関するご提案

主な意見
<現状の改善> - 拠点となる公共施設等での交通ターミナル（小牧駅、小牧市民病院、小牧市役所、桃花台センター、桃花台東、大型商業施設）の整備、渋滞多発地点の整備、バス専用レーンの設置などの道路環境の整備を求める。 - タクシー券の枚数を増やして欲しい。 - 巡回バスを利用しにくい方が、タクシーを利用しやすいようにすることが必要であり、タクシー券の配布を拡大していただけるとありがたい。 - タクシー券は、枚数が決まっており、もっとタクシーを利用したい人がいれば、タクシー券が余っている人もいる。タクシー券の販売も一つの方法である。 - 福祉タクシーを救急車の代替手段として利用できることが周知されていないので、周知して欲しい。 - 国からだけでなく市からも車両導入時の事業者向けの支援が欲しい。 - 市民、障がい者、交通事業者、福祉団体、行政といったいろんな立場の人が集まって議論する場が欲しい。 <今後の公共交通体系> - デマンド交通をやるのであれば、民間ではなく行政が中心となって進めるべきである。 - 交通結節点での乗り継ぎ利便性が重要になる。小牧駅ではバスから遠いなど、乗り継ぎの障壁をなくすことが必要である。 - 企業の通勤や業務目的で、比較的少人数の需要に対応する車両を企業と契約して運行している。予約もあれば定期便もある。ぜひタクシーも公共交通の一つとして考えて欲しい。 - タクシー営業が成り立っている地域にデマンド交通等を導入しても利用が限定的である。個別輸送のタクシーを活用して欲しい。 - 公共施設などには、いろんなタクシー会社が区別なく入れる乗降場をつくってほしい。決まった乗降場があればタクシーの待機やタクシー利用の情報提供がしやすくなる。 - タクシーとバスの住み分けをよく検討して欲しい。 <公共交通の利用促進> - 鉄道、バスを含めた時刻検索ができるようになると、便利になる。 - 信長夜会などの地域のお祭りや小牧山には魅力があり、観光客の誘致を小牧市と一緒にやっていきたい。 - 小学生や高齢者向けの「バスの乗り方教室」「交通安全教室」の実施や地域の祭事・イベントでの車両展示・乗車体験を連携していきたい。 - ＩＣカードを導入したいが、資金的に困難な状況であるが、現在の運賃の安さは強みのひとつである。 - 小牧山、豊山町のMRJのミュージアム、中央道のサービスエリア整備の構想などの活用により、観光目的の利用者も増やしたい。 - 小牧駅におかげ横丁のようなものを整備するなど小牧駅に行きたいと思わせる仕掛けができると良い。 - タクシーの試乗会は効果があるため、市と相談しながら実施できると良い。

公共交通地域懇談会

1. 開催概要

(1)実施の目的

小牧市地域公共交通網形成計画の策定にあたり、市内の公共交通に対するニーズの確認や、公共交通の利用促進に関するアイデア等を把握します。

2. 開催結果

(1)公共交通地域懇談会での主な意見(皆が利用しやすい公共交通のアイデア)

		小牧南地区	小牧地区	北里地区	巾下地区	味噌地区	篠岡地区
日時・場所		平成 28 年 11 月 13 日（日）午前 10 時～ ふらっとみなみ講堂	平成 28 年 11 月 13 日（日）午後 2 時～ 小牧市役所東庁舎大会議室	平成 28 年 11 月 23 日（祝）午前 10 時～ 北里市民センター講堂	平成 28 年 11 月 23 日（祝）午後 2 時～ ゆう友せいぶ講堂	平成 28 年 11 月 26 日（土）午前 10 時～ 味噌市民センター講堂	平成 28 年 11 月 26 日（土）午後 2 時～ 東部市民センター講堂
参加人数		7 人	3 人	12 人	15 人	53 人	25 人
皆が利用しやすい公共交通のアイデア	こまき巡回バス	<利便性の向上について> ・通院の多い時間は車両を大きくする。 <利用促進について> ・小牧山城等をめぐるバスルートを設定する。 ・観光需要を考慮した取組みを検討する。 ・若い人の参画を促す。 <運賃について> ・65 歳以上無料は継続すべき。 ・市外居住者のチェックは困難と思う。 ・乗り継ぎ 1 回限りとかもありえる。 ・1 日 200 円から 1 回 200 円とする。但し、1 回の乗り換えは無料とする。 ・65 歳以上も有料化して良い。 ・65 歳以上に証明証を配布して小牧市民のみ無料にする。 ・将来的には独立採算を目指すべき。	<利用促進について> ・レクリエーションを目的とした巡回バスモデルコースを設定する。 ・お散歩、ウォーキングと公共交通を連携させて、お年寄りの健康増進を推進する。 <運賃について> ・65 歳以上無料は利用するのに気が引ける。 ・小牧市民以外の 65 歳以上無料はおかしいので、名古屋市みたいなバスにする。 ・市外の 65 歳以上の方は有料にすべき。 ・市内の 65 歳以上の方へ高齢者バスを配布する。 等	<利便性の向上について> ・北名古屋市のバスとつながる停留所があると良い。 <利用促進について> ・バス利用者のターゲットを絞った運行にすべき。 ・会議をバスの時間に合わせるなど、バスの運行に生活を合わせる。 <運賃について> ・全世代を無料にする。 ・無料だと気まずさもある。 ・65 歳以上も一律 100 円を徴収する。 ・料金は名古屋市のように年 2,000 円ほど取る。 等 <バス停について> ・間内駅の待合環境を雨風しのげるように改善して欲しい。 ・バス停に屋根、椅子が欲しい。	<利便性の向上について> ・7 時台かその前に、鉄道駅に到着するような便を設けて欲しい。 ・時間がかかっても細かくバス停を置いて欲しい。 ・車椅子の方も利用しやすいよう配慮する。 ・バス停の場所を大きな店舗に設置し、駐輪場を設けたり、時間をつぶしやすくする。 ・手を上げたらバスが止まるようにして欲しい。 等 <運賃について> ・65 歳以上の無料を継続して欲しい。 ・子育て世代も無料にして欲しい。 ・巡回バスの早朝は値上げして、早朝に便を追加する。 ・65 歳以上も有料にする。 ・一律 100 円にする。	<利便性の向上について> ・系統番号を大きく表示させて、高齢者利用に配慮する。 ・田県神社前駅で、犬山市コミュニティバスと連絡が出来るようにして欲しい。 ・小牧駅発着の市役所・市民病院行のシャトルバスを運行する。 ・手を上げると巡回バスが止まってもらえると有りがたい。 等 <運賃について> ・市外の 65 歳以上の方も無料はおかしいので、高齢者へはチケット、パス、回数券などを発行する。 ・65 歳以上の方も一回 50 円払ってもらうのが良い。 等 <バス停について> ・バス停名は、可能な限り企業名にし、少額でいいからその企業から一部負担を受けて、巡回バス費用の一助にする。 等	<利便性の向上について> ・巡回バスと中央道高速バスのダイヤを調整して欲しい。 ・小牧駅と桃花台を最短で走る路線を作る。等 <運賃について> ・他の市にも 65 歳以上無料を広めるべきである。 ・高齢者には公共交通バスを配って、免許返納を勧めるべきである。 <バス停について> ・野口の郷前バス停に雨宿りや座る場所を設けて欲しい。 ・バス停名を分かりやすくして欲しい。
	鉄道や路線バス	<小牧駅について> ・小牧駅に案内板を設置して、情報提供を行う。 ・小牧駅などにバス乗り継ぎ案内ボランティアがいると良い。	—	<近距離高速バスについて> ・北里地区にもバス停を設けて欲しい。 ・バス停周辺に駐車場を整備して欲しい。 等 <路線バスについて> ・名鉄バスの間内・岩倉線を名鉄の終電に合わせて運行して欲しい。	<路線バスについて> ・春日井⇄桃花台⇄布袋を結ぶ新路線ができると良い。	<路線バスや鉄道について> ・名鉄小牧線の複線化と、1 時間 6 本運行を常に名鉄に働きかけて欲しい。 等	<路線バスや鉄道について> ・名鉄バス春日井・桃花台線は、春日井市民病院までは現状のままで良いが、以降は春日井駅までノンストップにして欲しい。 ・あおい交通のピーチバス、桃花台バスでも、交通系 IC カードを利用できるようにして欲しい。 等
	利用促進策	<情報提供について> ・老人会、区長会などの団体に情報を提供する。 ・HP の情報提供は見せ方を工夫する。 ・印刷物で周知して欲しい。	<情報提供について> ・公共交通の出前講座を利用して、老人クラブ等の組織へPR する。	<情報提供について> ・多気の人が岩倉へ行くときの情報が欲しい。 ・バスの運行状況を分かるようにする。	<情報提供について> ・老人会などで出前講座をやって欲しい。 ・モデルルートを示して欲しい。 ・バスマップや時刻表の地域版があると良い。 等	<情報提供やイベントについて> ・地域別に分かりやすい公共交通マップを作成して配布する。 ・朝市やイベントを市で企画してバス利用の向上を図る。 等	<情報提供やイベントについて> ・バス無料の日を作ったり、通勤時間帯を無料にしたりする。 ・乗ったバス停から到着までの時間が書いてあれば計画が立てられる。 等
	その他	<タクシーの活用について> ・タクシー補助を検討する。 <その他の公共交通について> ・シャトルバスを運行する。 ・必要な時に運行する交通手段を検討する。	<その他の公共交通について> ・デマンド交通が便利である。	<タクシーの活用について> ・乗合タクシーを運行する。 ・タクシー利用券やワンメーター無料になるタクシー補助券を発行する。	<タクシーの活用について> ・バス停まで歩いて行けない人のためのタクシーがあると良い。	<タクシーの活用について> ・乗り合いタクシーを運行したらどうか。 ・高齢者タクシーチケットを交付する。 等 <その他の公共交通について> ・隣接市町との連携を図る。 ・バス停まで自転車で行けるように、自転車優先道路を整備して欲しい。 等	<タクシーの活用について> ・地域内の病院へタクシーで行く場合は、タクシー代を半額補助して欲しい。 <その他の公共交通について> ・バス無料券を企業に買ってもらって従業員へ配る。 等
地域懇談会の様子							

調査結果のまとめ

小牧市地域公共交通網形成計画策定に係る各種アンケート等の調査の趣旨である以下の４つの視点から、現段階での調査結果をまとめました。

(1) 小牧市総合交通計画に掲げる施策の進捗状況を把握する。

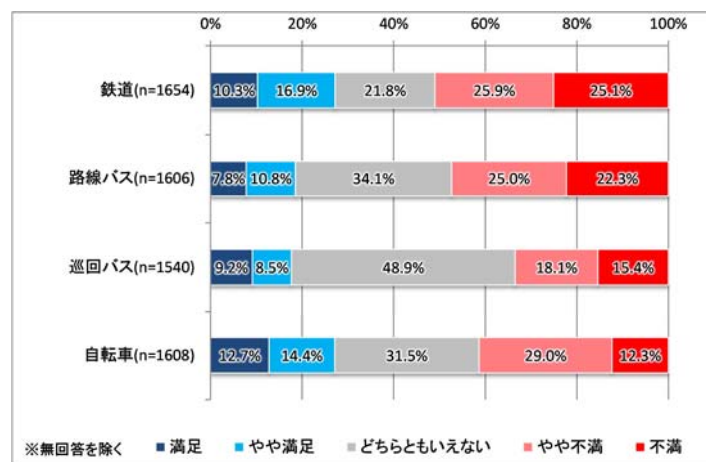
■ 市民アンケート問 29 の市内交通環境の満足度では、小牧市総合交通計画策定時のアンケート結果に比べ、鉄道、路線バス（ピーチバス・桃花台バス・名鉄バス等）、こまき巡回バスにおいて、不満足度が減少しています。

■ バス利用者アンケート問 13 のバスサービスや乗り継ぎに関する満足度では、こまき巡回バスのバス停位置や運賃に関する項目において、他の項目よりも満足度が高くなっています。

■ バス利用者ヒアリングでは、こまき巡回バスの利用者のうち、3 割は路線再編後の新規利用者となっています。

■ バス停利用者調査では、ロータリー整備後の新規利用者が一定数存在しているとともに、項目別の満足度において、全ての項目で満足度が不満足度を上回っています。

図 小牧市総合交通計画策定時のアンケート結果



以上のことから、こまき巡回バスの路線再編や中央道桃花台バス停前ロータリー等の整備など、小牧市総合交通計画に掲げる施策には、一定の効果があったと考えられます。

(2) 各公共交通機関が連携して地域の交通需要に対応するため、それぞれの役割を明確化する。(特に公共交通と福祉施策の住み分けを考慮する)

■ 市民アンケート問 30 の今後の公共交通に期待する役割では、名古屋への行きやすさ、将来的な利用、医療機関や拠点間の移動に期待する意見が多くなっています。

■ <新規> 市民アンケート問 6 の公共交通の利用が可能な徒歩での移動可能時間は、年齢が高くなるほど「10 分程度」までが占める割合は減少しており、鉄道駅やバス停の近接性が求められています。

■ <新規> 市民アンケート問 7 の鉄道やバスの乗り降りについて、乗降介助や車イスでの乗車が必要な方が一定数存在します。特に 70 歳以上では、他の年齢より乗降介助や車イスでの乗車が必要な方が多く存在しています。

■ <新規> バス利用者アンケート問 8 の乗り継ぎ利用では、岩倉駅へ乗り入れている路線は名鉄犬山線への乗り継ぎが多くを占めています。また、春日井駅、勝川駅、高蔵寺駅に乗り入れている路線は JR 中央本線への乗り継ぎが多くを占めています。このように路線バスから鉄道への乗り継ぎなど、複数の公共交通機関を乗り継いで利用する方が多い状況にあります。

■ <新規> 公共交通地域懇談会では、タクシーの活用も含めた各公共交通機関の連携を求める意見も挙げられています。

以上のことから、小牧市地域公共交通網形成計画の策定にあたっては、市民の市内外への移動ニーズに対し、路線機能に応じた各公共交通機関の役割の明確化と更なる相互連携が求められます。

(3) 市民に許容される財政負担額や、利用者に許容される受益者負担額を把握する。

■ 市民アンケート問 26 のこまき巡回バスに対する費用負担では、現状程度の負担を求める意見が 5 割、65 歳以上の料金無料を市内の方に限定し市の負担減を求める意見が 4 割を占めています。

■ バス利用者アンケート問 17 のこまき巡回バスに対する費用負担では、現状程度の負担を求める意見が 5 割を占めている一方で、65 歳以上の料金無料を市内の方に限定し市の負担減を求める意見が 3 割を占めています。

■ <新規> 公共交通地域懇談会では、65 歳以上の有料化や隣接市と連携を図った料金設定を求める意見も挙げられています。

以上のことから、小牧市地域公共交通網形成計画の策定にあたっては、現在の財政負担状況や市民及び利用者の意向を踏まえた受益者負担額の検討が求められます。

(4) こまき巡回バスの各コースについて、乗降バス停やダイヤの妥当性などの実態を把握する。

■ バス利用者アンケート問 14 の今後バスサービスを維持・拡充していく際に重視する項目では、こまき巡回バスにおいて運行本数、運行時間帯、運行経路、定時性が主に挙げられています。

■ 通過時刻調査では、特定の区間での遅延増大や平日と休日の所要時間のずれが明らかとなっています。

以上のことから、こまき巡回バスの更なる利便性向上に向け、安全性・定時性を確保しながら利用者ニーズに合致したダイヤの設定が課題です。